

# ノーベル經濟學賞受賞の學者

赤谷慶子

米國にノーベル經濟學賞の受賞者たちを以て設立せる「軍縮」を謳ふ團體あり。現在は「平和と安全を考ふるエコノミストの会」EPSといふ。数十年前、昔の職場の先輩よりその團體の發起人に日本における活動大々に始動せしむべく事務局立ち上ぐるは如何との依頼ありて、助力を求められたり。

日本支部の初代理事長はイェール大學の浜田宏一教授にて名誉顧問は福田赴美元總理大臣。現理事長は東京大學の河合正弘教授。一九九三年より十年間は東京澁谷の國連（國聯）大學本部に於て年一度のシンポジウムを開催せり。講師にはロバート・マクナマラ元米國防長官やEPSの理事なるノーベル經濟學賞受賞者のジエームズ・トービン、ケネス・アロー、ローレンス・クライン等の學者連の参加するありき。クライン教授は特に熱心にて、シンポジウム以外にもセミナーや他の國際會議等にも参加し、毎年來日せられたり。加へていと懇篤なる親日家にて、依頼せらるれば謝禮金の額を云々するなく、二つ返事にて應諾せらる。日本の情報や情勢も良く勉強せられたる事當然ながら、些細なる世俗的情報まで認知せられて、驚く事ありき。例へばある大手企業よりクライン教授の日本經濟の今後に關して講演依頼ありき。クライン教授は午前の部にて、午後はかの有名なる「失樂園」を執筆せし渡邊淳一氏なりき。あまりにも異なるテーマにて仲介に入りし事務局は困惑すれど、クライン先生は快諾したまひ、加へて我が話より聽衆は午後に興味を懐くにあらずやとてニヤリと微笑まれたり。

ノーベル經濟學賞受賞者の學者たちは、優れたるは當然ながら、比較的濃厚なる人たち多かりし。その中でもクライン教授は群を抜きて、末端まで氣を配らるるやうなる方にて、日本に於ても人氣高かりき。先生の信條としては、有名大學はすでに確立せられたれば認知度のあまり高からぬ大學應援せまほしと日本各地を周られてありき。

シンポジウムは十年にて終了し、その後はテーマごとの研究会開催し、今日に至る。研究会の結論はEPSの提言として研究會委員作成し、毎年政府に提出せらるるあり。その前段階の記録を作成するも事務局の仕事なれど、門前の小僧といはんか、我ら事務局にとりてはげに勉強になりし、いと興味深くをかしかりき。「日中關係のあるべき姿」や「國際金融システム改革」「日本新經濟成長戰略」「格差問題」等がテーマになりたりき。

残念ながら日本よりは未だノーベル經濟學賞を受賞せし人なし。クライン先生やアマーティア・セン教授のごとく頭腦のみならず、人間として優れたる人の受賞せんことを願ふ、切なり。

（平成二十九年七月二十七日受附）